

神経疾患における用語統一に向けての課題

東京大学医学部附属病院 神経内科
日本神経学会用語委員会 前委員長

辻 省次

神経疾患に関連する用語集

神経学用語集(改訂第3版) 日本神経学会

用語集(web版) 日本脳神経学会

DSM-5 病名・用語翻訳ガイドライン(初版)

日本精神神経学会 精神科病名検討連絡会

- これらの用語集の間では、統一されていない用語が少なからず存在する。
- それぞれの学会の用語集は、用語に対する学術的な認識だけでなく、時代と共に変動する社会状況など、複合的な要素の上で作成されている。
- 用語を統一することが臨まれるが、上記の複合的な要素を十分に考慮に入れ、学会間で幅広い連携の上で検討することが望まれる。

神経学用語集 改訂第3版

日本神経学会用語委員会 編

Terminology in Clinical Neurology

Committee on Neurological Terminology

The Japanese Society of Neurology

凡例

【凡例目次】

I 編集方針	2	6. concomitant, congruent, conjugate:	
II 語彙の収集	2	共動性, 合同性, 共同性	12
III 欧語用語の選定と表記法	4	7. crisis: 急性悪化, 発作	12
1. 採用の基準	4	8. deep reflex, deep tendon reflex, tendon reflex: 腱反射	13
(1) 採用の対象	4	9. disease 病, 疾患	13
(2) 欧語の種類	4	10. disorder: 疾患, 障害	13
(3) 品詞の種類	4	11. disturbance of consciousness: 意識障害	14
(4) 除外	4	12. dizziness, giddiness, vertigo: めまい[感], くらくら感, 回転性めまい	14
(5) 古語	4	13. dysesthesia, paresthesia: 異常感覚, 錯感覚	15
(6) 複数形	4	14. familial, hereditary isolated, sporadic:	
(7) 人名詞所有格	4	家族性, 遺伝性, 散发性, 孤発性	16
(8) 人名冠詞	4	15. fasciculation: 線維束性収縮	16
(9) “the” の省略	5	16. finger toe: 指, 趾	17
(10) 略語	5	17. hemi-: 半[側], 片[側]	17
2. 同義語の選定基準	5	18. -ia, -us, -y	17
3. 英語と他の欧語の表記	5	19. index, quotient, scale, score: 指数, 商, 尺度, 評点	17
4. 解剖学用語の表記	5	20. 1anguage, -lalia, speech: 言語, 発語, 発話	18
IV 日本語用語の選定と表記法	5	21. myotonic, tetanic, tonic: 筋強直性, 強縮性, 緊張性, 強直性	18
1. 採用の基準	5	22. oculo-: 眼球 ~ ~ 眼球	18
(1) 同義複数語の整理	5	23. -oma, tumor: 腫, 腫瘍	18
(2) 同類語, 近似語, 対比語の整理	5	24. perception, sensation, sense, sensory: 知覚, 感覚	19
(3) 発音の整理	7	25. peroneal: 腓骨部, 腓骨神経, 腓骨型(付:humeral)	19
2. 仮名表記法	7	26. pseudo-: 偽性	20
(1) 欧語のカタカナ表記	7	27. receptor: 受容体, 受容器	20
(2) カタカナ ひらがな表記	7	28. rigidity: 硬直, 強剛, 固縮, 強直	20
(3) 漢字 カタカナの選択	8	29. senile: 老年, 老年性	21
(4) 漢字のひらがな書き	8	30. spasm[us], spasticity: 拳縮, 痙縮	21
3. 「症」, 「法」, 「術」の使い分け	8	31. test: 検査, 試験	21
(1) 「症」の使い分け	8	VI. 見出し語の配列	22
(2) 「法」と「術」の使い分け	9	VII. 和欧編での欧語配列	22
V 特定用語の解説	9	VIII. 記号の説明	23
1. “~性~”の使用基準	9		
2. age: 年齢期	11		
3. alternate, alternating, alternative 交叉 性, 交代性	11		
4. associated movement, coordination, synergy: 連合運動, 協調運動, 協働収縮(運動)	11		
5. attack, episode, fit, paroxysm, seizure, spell, stroke 発作	12		

日本神経学会の神経学用語集では、凡例に多くの頁を割いて、用語の定め方に対する考え方を詳述している。

神経学用語集(日本神経学会)

28. rigidity: 硬直, 強剛, 固縮, 強直

rigidityは筋の受動運動での固さを指す総称である。日本語では一般的に“硬直”が用いられる。rigidityにはいろいろな種類があり、欧語では形容詞により特徴が示される(例: cadaveric rigidity 屍体硬直, decerebrate rigidity 除脳硬直)。英語(欧語)のrigidityは語義の幅が広く痙縮spasticityもかつてはspastic rigidityといわれたことがある一方、本邦ではparkinsonian [muscular] rigidityにその性質の特殊性から“筋強剛”が用いられていた。その後、電気生理学の発展に伴い、筋電図所見上でspasticity痙縮に対峙してrigidityに“固縮”が用いられた、これがparkinsonian [muscular] rigidityにも拡大されて筋固縮と称されたが、spinal animalなど実験動物にみられる rigidity 固縮と異なるなど、固縮を parkinsonian rigidity にも当てるのは固さの性質からみて好適でないという意見がある。

このように英語(欧語)では rigidity で固さを総称し形容詞でその性質を区別しているのに引き替え、日本語では固さの性質を含めて硬直, 強剛, 固縮, 強直など各種の用語がある。この背景を理解し、日本語本来の用語の豊かさを活用し、英語の各種rigidityの性質に対応した日本語用語を選ぶこととした。

rigidity: 1. 硬直, 2. 強剛, 3. 固縮, 4. 強直 (前に置かれる特徴語によって使い分けられる)

rigidity: 硬直, 強剛, 固縮, 強直

- | | |
|----------------------------------|-------------------|
| (例1) clasp-knife rigidity | 折りたたみナイフ様硬直 |
| decerebrate rigidity | 除脳硬直 |
| nuchal rigidity | 項部硬直 (髄膜炎における) |
| spastic rigidity | 痙縮[性硬直] |
| (例2) lead-pipe rigidity | 鉛管様強剛 |
| neck rigidity | 頸部強剛(パーキンソン病における) |
| Parkinsonian [muscular] rigidity | パーキンソン[筋]強剛 |
| rigidospasticity | 強剛痙縮 |
| (例3) alpha(α)rigidity | アルファ固縮 |
| gamma(γ)rigidity | ガンマ固縮 |
| spinal rigidity | 脊髄性固縮 (実験動物における) |
| (例4) absolute pupillary rigidity | 絶対性瞳孔強直 |

rigidity: 硬直, 強剛, 固縮, 強直

	日本医学会医学用語辞典	日本神経学会	日本脳神経外科学会
clasp-knife rigidity	未収載	折りたたみナイフ様硬直	折りたたみナイフ様硬直
cogwheel rigidity	歯車様固縮	歯車様強剛	歯車様強剛
decerebrate rigidity	除脳硬直	除脳硬直	除脳硬直
lead-pipe rigidity	鉛管様固縮	鉛管様強剛	鉛管様強剛
neck rigidity	未収載	頸部強剛(パーキンソン病における)	頸部強剛{パーキンソン病の}
nuchal rigidity	項部固縮	項部硬直(後頸部の筋緊張亢進で髄膜刺激症候の一つ; =nuchal stiffness, neck rigidityと区別される)	項部硬直{ =nuchal stiffness, stiff neck, stiffness of neck} {髄膜刺激症候の一つ. neck rigidityと区別される}
rigidity	筋硬直、筋強剛、筋硬直、筋強直、固縮、硬直、筋強直固縮	1. 硬直, 2. 強剛, 3. 固縮, 4. 強直 (前に置かれる特徴語によって使い分けられる)	1.硬直, 2.強剛, 3.固縮, 4.強直

神経学用語集(日本神経学会)

3. 「症」, 「法」, 「術」の使い分け

欧語では一つの用語で病名, 病態名, 症候名あるいは所見名など多義を表すことがありそれぞれに対する日本語用語では“症”をつけるのが妥当な場合とそうでない場合とがある(例 muscular atrophy 筋萎縮症と筋萎縮). このような両様の使い方のあることを日本語用語では「症」をもって表現した. 本来“症”は病気の性質を指しすなわち症状の名称に用いられ, 症状の集合が“病”である. 今日ではこれと異なり疾患名に症をつけ, 症候名は症を省く傾向にある. 本用語集では原則として症を付す場合は疾患名や病態名または概念を指し, 付さない場合は症候や所見などを具体的に指すものとした.

DSM-5[®]

精神疾患の 分類と診断の手引

DESK REFERENCE TO THE
DIAGNOSTIC CRITERIA FROM
DSM-5[®]

American Psychiatric Association

日本語版用語監修
日本精神神経学会

監訳

高橋三郎 大野 裕

訳

染矢俊幸 神庭重信 尾崎紀夫

三村 將 村井俊哉

DSM-5 病名・用語翻訳ガイドライン (初版)

日本精神神経学会 精神科病名検討連絡会

日本精神神経学会精神科用語検討委員会は、精神科関連 15 学会・委員会の代表者とで、日本精神神経学会精神科病名検討連絡会を組織し、総計 17 回にわたり連絡会議を開催し、DSM-5 病名・用語翻訳ガイドライン (初版) を作成した。この過程で、本学会の代議員にアンケートを行い、また一般会員から意見を募集し、それらの結果を検討し議論を重ねた。

<索引用語：DSM-5, 病名, 用語>

精神科病名検討連絡会

- ① 日本トラウマティック・ストレス学会
- ② 日本精神神経学会精神科用語検討委員会
- ③ 日本睡眠学会
- ④ 日本うつ病学会
- ⑤ 日本精神科診断学会
- ⑥ 日本心身医学会
- ⑦ 日本児童青年精神医学会
- ⑧ 日本不安障害学会
- ⑨ 日本老年精神医学会
- ⑩ 日本精神神経学会性同一性障害に関する委員,
- ⑪ 日本精神神経学会ICD-11 委員会
- ⑫ 日本アルコール・薬物医学会
- ⑬ 日本依存神経精神科学会
- ⑭ 日本統合失調症学会
- ⑮ 日本摂食障害学会

DSM-5 病名・用語翻訳ガイドライン(初版)

日本精神神経学会 精神科病名検討連絡会

病名・用語を決める際の連絡会の基本方針を以下に列挙する。

- ① 患者中心の医療が行われる中で、病名・用語はよりわかりやすいもの、患者の理解と納得が得られやすいものであること
- ② 差別意識や不快感を生まない名称であること
- ③ 国民の病気への認知度を高めやすいものであること
- ④ 直訳が相応しくない場合には意訳を考え、アルファベット病名はなるべく使わないこと

DSM-5 病名・用語翻訳ガイドライン(初版)

日本精神神経学会 精神科病名検討連絡会

連絡会は各専門学会が練り上げた翻訳案を最大限尊重した。例えば、児童青年期の疾患では、病名に障害とつくことは、児童や親に大きな衝撃をあたえるため、「障害」を「症」に変えることが提案された。不安症およびその一部の関連疾患についても概ね同じような理由から「症」と訳すことが提案された。さらに連絡会では、disorder を「障害」とすると、disability の「障害(碍)」と混同され、しかも“不可逆的な状態にある”との誤解を生じることもあるので、DSM-5 の全病名で、「障害」を「症」に変えた方がよいとする意見も少なくなかった。その一方で、「症」とすることは過剰診断・過剰治療につながる可能性があるなどの反対の意見もあり、専門学会の要望の強かった児童青年期の疾患と不安症およびその一部の関連疾患に限り変えることにした。

ただし、「症」と変えた場合、およびDSM-IVなどから引き継がれた疾患概念で旧病名がある程度普及して用いられている場合には、新たに提案する病名の横に旧病名をスラッシュで併記することにした。前者の例が、例えば「パニック症/パニック障害」であり、後者の例が、たとえば「うつ病(DSM-5)/大うつ病性障害」である。

「症」の使われ方

	日本医学会医学用語 辞典	DSM-5 和訳 (日本精神神経学会, 精神科病名検討連絡会)	日本神経学会
Panic disorder	パニック障害	パニック症/パニック障害	恐怖性障害(パニック障害ともいう)
Movement disorder/ Motor Disorders	未収載	運動症群/運動障害群	運動異常「症」
Tourette's Disorder/Tourette syndrome	トゥレット症候群	トゥレット症/トゥレット障害	トゥレット症候群
Anorexia Nervosa	神経性食思不振症 神経性食欲不振症	神経性やせ症/神経性無食欲症	神経性食欲不振「症」

神経疾患における用語統一に向けての課題

- 神経疾患に関連する用語に限っても、各学会から出されている用語集の間で、統一されていない用語が少なからず存在する。
- 特に、診療科の間の境界領域における用語を統一していく必要性が高いと考えられる。
- それぞれの学会の用語集は、用語に対する学術的な認識だけでなく、時代と共に変動する社会状況など、複合的な要素の上で作成されている。
- 用語を統一することが臨まれるが、シンプルに統一することは困難であり、上記の複合的な要素を十分に考慮に入れて検討していく必要がある。
- これまで以上に、学会間で幅広く連携して、用語の統一に向けて検討することが望まれる。
- ICHD11の準備が進められており、この機会に、よりいっそうの用語統一を目指すことが望まれる。